

## 科 目 名

# 日本の文学Ⅱ

## Japanese Literature Ⅱ

1年 後期 2単位 選択

坂 口 頼 孝

### 概 要

歌人として、また多くの古典を書写し今日に伝えた功績で知られる藤原定家。その定家の書いた短い歌論書（短歌の作り方を述べたもの）がある。そこにお手本として103首の短歌が載っている。その中から春・夏・秋・冬・哀傷を歌い、内容的に魅力があり、語法的・修辭的にも重要と思われるものを順次取り上げる。

日本の文学Ⅰでは変体仮名が読めるようになることに主眼を置くが、Ⅱでは読んだ後の処理である仮名遣いの異同の指摘・漢字仮名混じり表記・品詞分解・口語訳、さらには感想あるいは鑑賞文作成に主眼を置く。

### 目 標

何も見ないで変体仮名が読めるようになること。進んで、仮名遣いの異同の指摘・漢字かな混じり表記・品詞分解・口語訳・感想あるいは鑑賞文の作成が自分のできるようになること。

### 授業計画

#### 第1回

授業の目的・やり方を確認する。新受講生（日本の文学Ⅰ未履修）がいた場合は古典の読み方や平仮名・片仮名の成り立ち・字源について触れる。その後1首目（12ページ）の歌の字源を確認する。「かな字典」は使わず、漢字で書いてある所も前後の文脈から類推させる（新受講生を除く）。

#### 第2回

1首目（12ページ）の仮名遣いの異同の指摘・漢字仮名混じり表記・品詞分解・口語訳・感想あるいは鑑賞文を完成させる。

#### 第3回

2首目（15ページ）の字源・平仮名表記・仮名遣いの異同の指摘・漢字仮名混じり表記・品詞分解・口語訳・感想あるいは鑑賞文を完成させる。

#### 第4回～第10回

3首目（16ページ）・4首目（16ページ）・5首目（17ページ）・6首目（18ページ）・7首目（23ページ）・8首目（24ページ）・9首目（27ページ）において上記の作業をさせる。

#### 第11回

10首目（27ページ）において上記の作業をさせる。必要に応じ冬休みの宿題を課す。

#### 第12回

冬休みの宿題があれば回収し、チェックする。その間11首目（31ページ）において上記の作業をさせる。その後冬休みの宿題の正解を教室後方に6枚ほど置き、名簿順に答え合わせをさせる。各自答案訂正の上提出するよう伝える。

#### 第13回

11首目の作業を完成させ、解説する。

#### 第14回：練習

定期試験の模擬試験（練習問題）を配る。本番と同じ形式で行う。机間巡視し、出来の良くない学生に対し、奮起を促す。

#### 第15回：定期試験

### 授業方法

毎回教員が1首を指示し、受講生は

1. それ（変体仮名）を読む（元の漢字に直す）。
2. 全て平仮名にし、歴史的仮名遣いと異なるものを訂正する。
3. 漢字仮名交じりに直す。
4. 品詞分解をすると共に歌の修辭を指摘する。
5. 口語訳を考える。
6. 感想文または鑑賞文を書く。

の作業を行う。この間教員が適宜アドバイスを与える。

### 評価方法

定期試験（100点満点・筆記）。60点に満たなければ再試験（1回のみ）を実施する。定期試験・再試験は古語辞典（電子辞書）と文法書のみ持込可。時間は60分。

### 教 材

教科書：百人一首（堯孝筆）笠間書院（1,000円）…必要  
字典かな 笠間書院（390円）…あれば、持って来る。

### 履修上の注意

古語辞典（電子辞書の場合、活用表が付いていないものは別に文法書が必要）とノートを必ず持って来ること。ノートは過去の分も持って来ること。